

令和元年度
山口県学力定着状況確認問題
結果について



令和元年 1 2 月

山口県教育庁義務教育課

目 次

| | | | |
|-----|--------------|---|----|
| I | 実施概要 | P | 1 |
| II | 教科の問題に関する結果 | P | 3 |
| 1 | 小学校 | | |
| (1) | 国語 | P | 3 |
| (2) | 算数 | P | 8 |
| (3) | 社会 | P | 13 |
| (4) | 理科 | P | 17 |
| 2 | 中学校 | | |
| (1) | 国語 | P | 21 |
| (2) | 数学 | P | 25 |
| (3) | 社会 | P | 29 |
| (4) | 理科 | P | 33 |
| (5) | 英語 | P | 37 |
| 3 | 設問別正答率一覧 | P | 42 |
| III | 児童生徒質問紙調査の結果 | P | 58 |

【データの処理について】

○各学年の実施人数について

- ・各学年の実施人数は、教科の問題及び質問紙を実施した児童生徒数の最大値を示している。

○平均正答率の算出方法について

- ・各教科の平均正答率は、問題を実施した全ての児童生徒の解答結果から算出している。
- ・学校の教育課程上の理由等により一部の問題を実施していない児童生徒についても、全体に含めて算出している。

I 実施概要

1 目的

児童生徒の客観的な学力状況の経年的な把握と分析を通して、課題解決に向けた指導の工夫改善等の取組の充実を図る全県的な検証改善サイクルを確立し、県内全ての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図る。

2 実施期日

令和元年10月23日(水) ※学校の状況に応じて、10/21～10/31の期間に実施

3 実施対象及び実施内容

| 学 年 | | 実施人数 | 内 容 (時 間) | |
|-----|------|---------|----------------------|-------|
| 小学校 | 第4学年 | 10,839人 | 国語、算数(各40分) | 及び質問紙 |
| | 第5学年 | 10,859人 | 国語、算数、社会、理科(各40分) | 及び質問紙 |
| | 第6学年 | 11,058人 | 国語、算数(各40分) | 及び質問紙 |
| 中学校 | 第1学年 | 10,426人 | 国語、数学(各45分) | 及び質問紙 |
| | 第2学年 | 9,992人 | 国語、数学、社会、理科、英語(各45分) | 及び質問紙 |

4 教科の問題について

(1) 出題内容

○以下の①、②による総合的な問題とし、記述式の問題を一定の割合で出題する。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題

○問題は、調査実施時点までに学習していると想定される範囲とし、問題の程度は、対象学年までの学習指導要領を基準とする。

(2) 平均正答率

①小学校

| | 国 語 | 算 数 | 社 会 | 理 科 |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 第4学年 | 59.1% | 57.8% | | |
| 第5学年 | 57.4% | 55.1% | 57.3% | 54.1% |
| 第6学年 | 71.9% | 51.5% | | |

②中学校

| | 国 語 | 数 学 | 社 会 | 理 科 | 英 語 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 第1学年 | 61.3% | 60.0% | | | |
| 第2学年 | 50.1% | 55.0% | 44.9% | 49.8% | 56.6% |

5 質問紙について

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する内容を問うものとする。

6 教科の問題結果から見られる特徴

- 基礎的・基本的な内容を問う問題については、概ね成果や改善傾向が見られる。
- 基礎的・基本的な内容を活用して具体的な場面について考察する問題や、条件に沿って自分の考えや根拠等を記述する問題については、依然として課題が見られる。

| | | 主な成果 | 主な課題 |
|-----|----|---|---|
| 小学校 | 国語 | ○基本的な漢字を正しく使うこと ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること | ●文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと ●目的や意図に応じて自分の考えをまとめて書くこと ●目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと |
| | 算数 | ○同分母分数の減法の計算をすること ○数量の変化に着目して、その様子を表にまとめること | ●仮分数の大きさを単位分数のいくつ分で表すこと ●比較量とその割合から、基準量を求めること ●必要な数値を抽出して、値段の差がA店の値段の10%にあたることを式で表すこと |
| | 社会 | ○スーパーマーケットの工夫について理解すること ○昔の人々の使っていた道具を理解すること | ●等高線の名称を理解すること ●日本の北方領土について理解すること |
| | 理科 | ○物の重さについて、物の形や物自体の増減とを関連付けて理解すること ○温度によって変わる水の姿を理解すること | ●飛行機が飛ぶ距離について、一つの実験方法とは別の方法を考えること ●星や星座の見た目の位置の変化について、推察すること |
| 中学校 | 国語 | ○文脈に即して、適切な語句を選択すること ○内容を的確に捉え、必要な情報を取り出すこと | ●伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと ●表現の意図を理解して説明すること |
| | 数学 | ○計算のきまりにしたがって計算をすること ○表から読み取った事柄を的確に評価すること | ●基準量を基に比較量を求めること ●事象と式の対応を的確に捉え、文字式の成り立ちを説明すること ●判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること |
| | 社会 | ○人々の暮らしと雨温図を関連付けて選択すること ○太閤検地と刀狩を兵農分離と関連付けて理解すること | ●資料から必要な情報を読み取り、読み取った情報を関連付けて説明すること ●正長の土一揆の意義について複数の資料をもとに適切な語句を入れること |
| | 理科 | ○音を高くする条件に合う実験方法を適切に選択すること ○化学式を見て単体か化合物かどうかを判別すること | ●グラフから物質の密度を読み取る方法を説明すること ●資料を活用して火成岩の特徴から岩石の種類を判別すること |
| | 英語 | ○日常的な話題について、情報を正確に聞きとること ○基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うこと | ●文脈に合うように内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くこと ●聞いて把握した内容について、適切に応じること |